

# 東京大学における獣医学教育： 現状と展望



動物科学を通じて、人類・社会に貢献する



堀本泰介  
東京大学大学院農学生命科学研究科  
獣医学専攻  
学部教育担当



# Outline

1. 東京大学の教育システム
2. 学部教育の現状
3. 大学院教育の現状
4. 課題と展望





# Outline

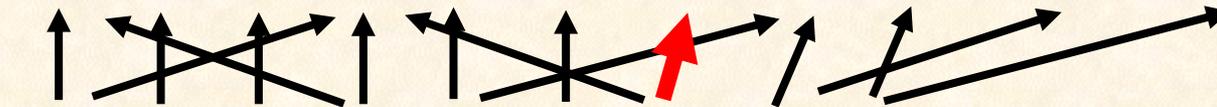
1. 東京大学の教育システム
2. 学部教育の現状
3. 大学院教育の現状
4. 課題と展望



# 東京大学の教育システム



大学院  
(修士・博士)  
農学生命科学研究科  
獣医学専攻



後期課程 (専門教育)  
3~4(6)年生  
農学部獣医学専修



前期課程 (教養教育)  
1~2年生



# 前期教養課程

- 全1、2年生（駒場キャンパス）
- **63単位**以上取得しないと各学部（3年生）に進学できない。

基礎科目：英語、第二（第三）外国語、情報、  
運動健康実習、初年次ゼミ、  
自然科学（実験、数理、物質、生命）

総合科目：言語、コミュニケーション、思想、芸術、国際、  
地域、社会、制度、人間、環境、物質、生命、  
数理、情報

主題, 展開科目：研究ゼミ、体験ゼミ、国際研修

## 教育理念

「特定の専門分野に偏らない幅広いリベラル・アーツの獲得」

「専門課程に進むために必要な知識・知的技能の習得」





# Outline

1. 東京大学の教育システム
- 2. 学部教育の現状**
3. 大学院教育の現状
4. 課題と展望



# 教育理念

東京大学農学部獣医学専修は、生命科学をはじめとする幅広い学問に基づいた高度な獣医学の教授を通じて、地球規模の課題を自ら解決できる強い使命感と意志と能力、および社会科学に対する深い理解と高い倫理性・人類愛を涵養し、**日本および世界において獣医学領域のリーダー**として活躍する人材を育成する。

平成25年5月22日制定

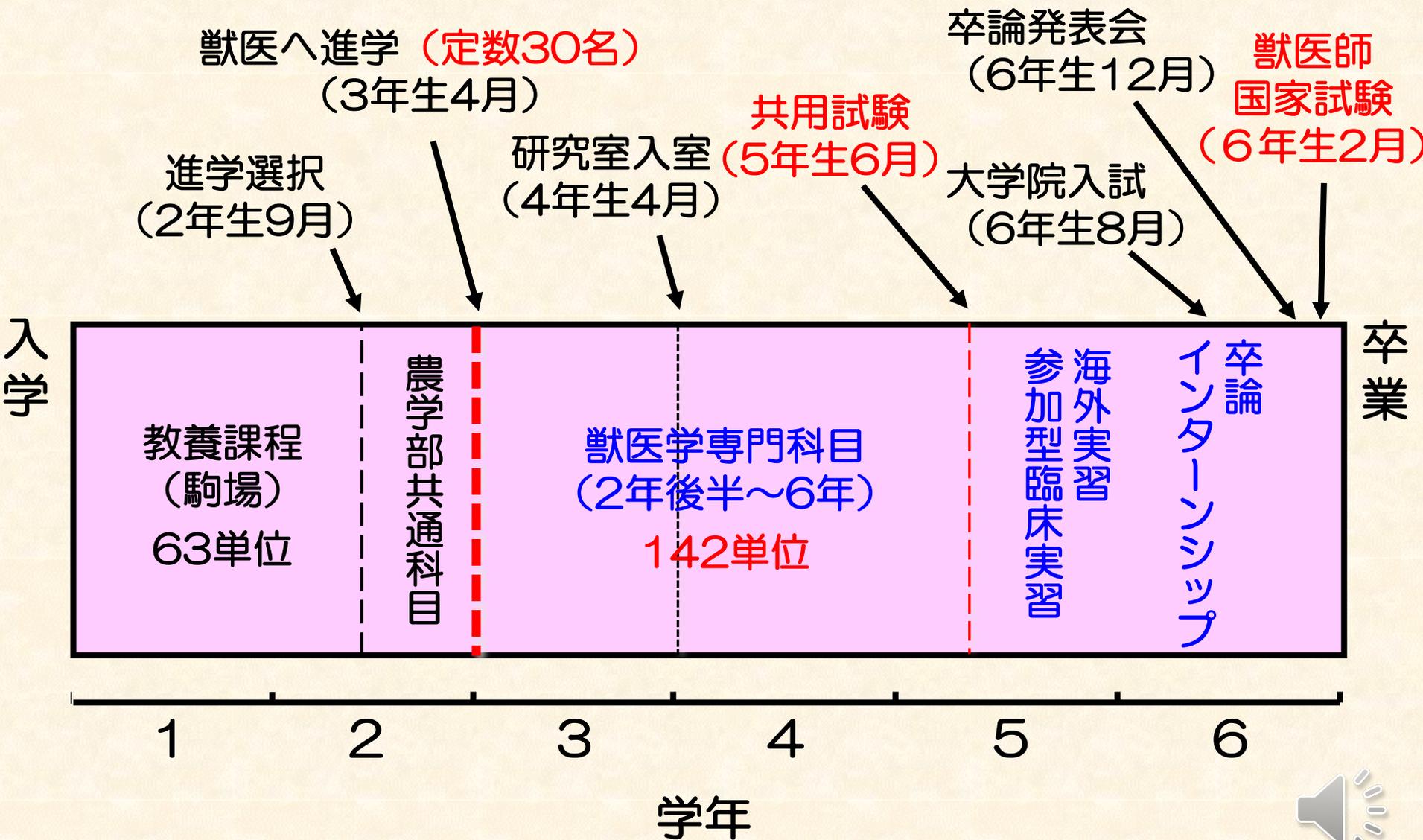


# 教育理念

1. **One health**の考え方を理解し、グローバルな視点で人の健康増進、環境保全、食料・畜産事情に精通し、**動物衛生・福祉、公衆衛生**に関連する諸問題を獣医学的観点から解決する能力を持ち、**政府系機関**や**国際機関**等で活躍する人材
2. 国際標準の獣医臨床知識と技術を身につけ、幅広い知識に裏付けられた倫理性を備えた**総合医**、高度獣医療を提供する**専門医**、高度な臨床研究・トランスレーショナルリサーチを行う**臨床研究者**を目指す人材
3. 動物生命科学の基礎知識を身につけ、最先端の研究活動を実施し、新たな研究分野を創造し、次世代の獣医学教育を担う国際レベルの**教育者・基礎研究者**を目指す人材



# 学部履修イメージ



# 獣医学専門科目

## 導入・基礎科目

講義コアカリ	東大科目
獣医学概論	応用動物科学概論
獣医倫理・動物福祉学	獣医倫理・動物福祉学
獣医事法規	獣医事法規
解剖学	獣医解剖学
組織学	組織学
発生学	発生学
生理学	動物生理学 神経生理学 体液生理学 内分泌・代謝生理学
生化学	動物細胞生化学Ⅰ・Ⅱ
薬理学	薬理学総論・各論 細胞情報薬理学
動物遺伝育種学	応用遺伝学
動物行動学	動物行動学
実験動物学	実験動物学
獣医基礎放射線学	放射線生物学

実習コアカリ	東大科目
解剖学実習	解剖学実習
組織学実習	組織学実習
生理学実習	生体機能学実習
生化学実習	
薬理学実習	
実験動物学実習	実験動物学実習



# 病態科目

講義コアカリ	東大科目
病理学	病理学総論・各論
免疫学	応用免疫学
微生物学	細菌学 ウイルス学
家禽疾病学	家禽疾病学
動物感染症学	動物感染症学
寄生虫病学	寄生虫学

実習コアカリ	東大科目
病理学実習	病理学実習
微生物学実習	細菌学実習 ウイルス・免疫学実習
寄生虫病学実習	寄生虫学実習

# 応用科目

講義コアカリ	東大科目
魚病学	魚病学
動物衛生学	獣医衛生学
公衆衛生学総論	公衆衛生学総論
食品衛生学	食品衛生学
環境衛生学	環境衛生学
毒性学	毒性学
人獣共通感染症学	人獣共通感染症学
疫学	獣医疫学
野生動物学	野生動物医学

実習コアカリ	東大科目
動物衛生学実習	動物衛生学実習
公衆衛生学実習	獣医公衆衛生学実習
食品衛生学実習	食品衛生学実習
毒性学実習	毒性学実習



# 臨床科目

講義コアカリ	東大科目
内科学総論	内科学総論
臨床病理学	臨床病理学
臨床薬理学	臨床薬理学
呼吸循環器病学	呼吸循環器病学
消化器病学	消化器病学 肝臓病学
腎泌尿器病学	泌尿器病学
内分泌代謝病学	内分泌学Ⅰ・Ⅱ
臨床栄養学	臨床栄養学総論・各論
神経病学	神経病学
血液病学	血液病学
皮膚病学	皮膚病学
臨床行動学	臨床行動学
外科学総論	外科学・手術学総論
手術学総論	
麻酔学	麻酔・鎮痛学
軟部組織外科学	外科呼吸器循環器病学 外科泌尿生殖器病学 外科消化器病学

講義コアカリ	東大科目
運動器病学	運動器病学 神経外科学
臨床腫瘍学	外科軟部組織病学
眼科学	眼科学
画像診断学	画像診断学
産業動物臨床学	産業動物臨床学Ⅰ-Ⅲ
馬臨床学	馬臨床学
臨床繁殖学	生殖生物学 臨床繁殖学

実習コアカリ	東大科目
小動物内科学実習	基礎臨床学実習Ⅰ
小動物外科学実習	基礎臨床学実習Ⅲ
放射線・画像診断学実習	基礎臨床学実習Ⅱ
産業動物臨床学実習	大動物臨床・ 臨床繁殖実習
臨床繁殖学実習	臨床繁殖実習
総合参加型臨床実習	小動物ポリクリ 大動物ポリクリ



# アドバンス科目

- (導入) 獣医学基礎実習 (牧場・病院)
- (臨床) 感染症・エキゾチックアニマル病学
- (臨床) 医療面接コミュニケーション
- (全) 科学プレゼンテーション
- (応用) 応用獣医学インターンシップ
- (臨床) 総合臨床学インターンシップ (海外・国内)
- (全) 卒業論文

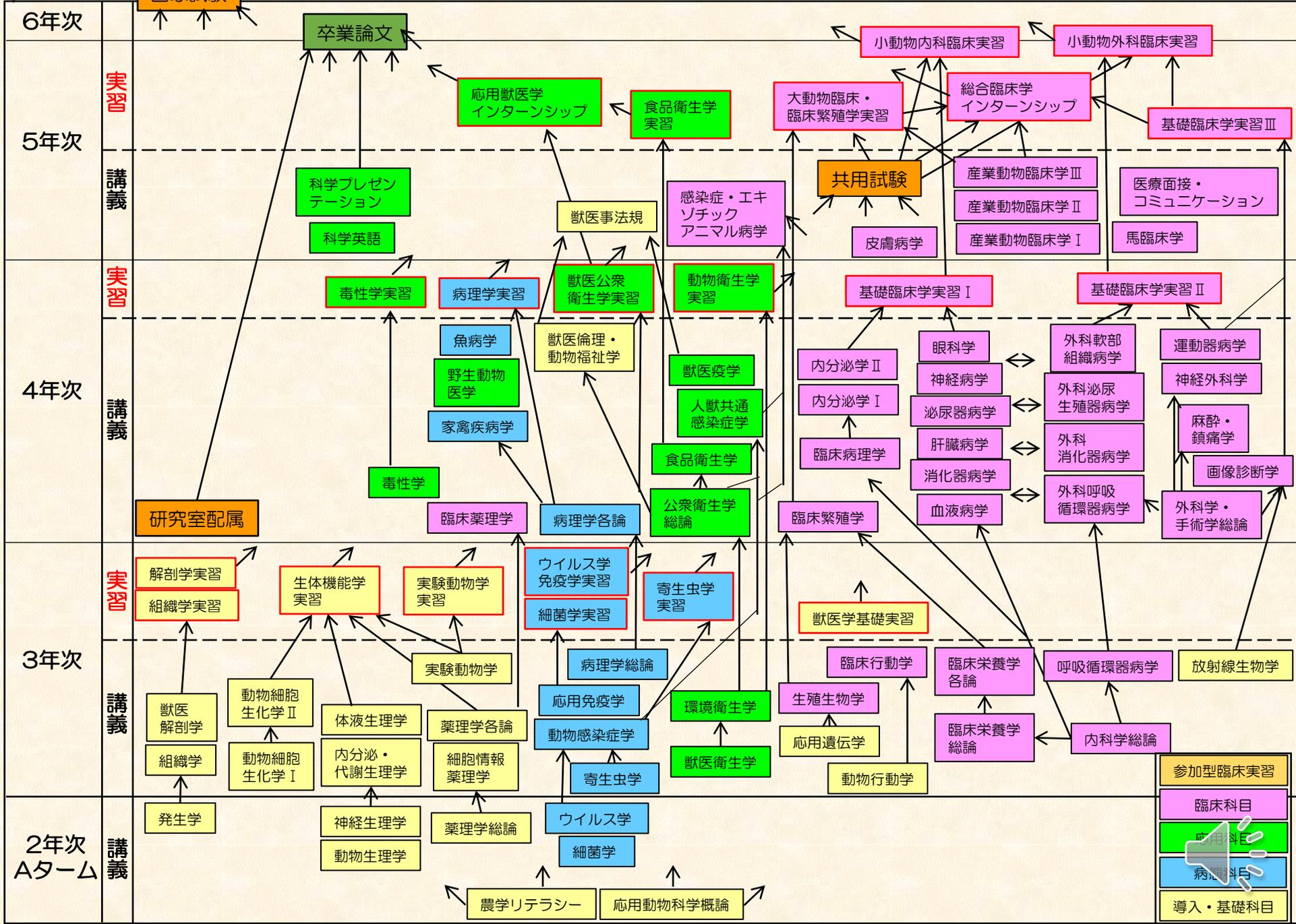
H24-28: 関東4獣医大学間連携プログラム (vet4U: 日大, 麻布大, 日獣大)

附属動物医療センター

附属牧場 (茨城県笠間市)  
高等動物教育研究センター



# 獣医学専修カリキュラムマップ



参加型臨床実習

臨床科目

実習科目

病理科目

導入・基礎科目

# 海外実習・internship

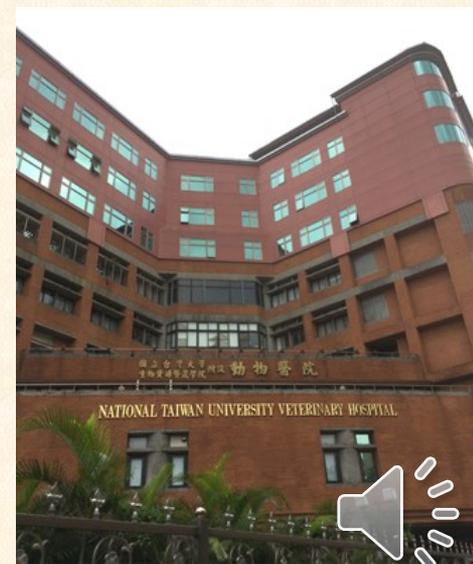
## タイ（カセサート大学）

- × 5年生5～6名
- × 長期（3か月）の獣医臨床実習
- × 受講した科目は卒業単位に読替え・認定  
Clinical Practice in Farm Animal, Small Animal,  
Ruminant and Wildlife
- × 「日本とタイの獣医学教育連携プログラム  
（世界展開力）」（北大, 酪農大）



## 台湾（台湾大, 中興大, 屏東科技大） 韓国（ソウル大）

- × 5年生各5～6名
- × 短期（2週間）の臨床獣医学研修  
（研究室, 動物病院, 動物園）
- × 「戦略的PS構築プロジェクト」
- × 旅費、宿泊費等は奨学金支給



# 卒論研究（配属研究室）

## 獣医学専修

獣医繁殖育種学	獣医病理学
獣医解剖学	感染制御学
獣医生理学	獣医内科学
獣医薬理学	獣医外科学
獣医微生物学	獣医臨床病理学
獣医公衆衛生学	高度医療科学
実験動物学	産業動物臨床学
獣医衛生学	

## 動物生命システム 科学専修

応用免疫学  
応用遺伝学  
細胞生化学  
獣医動物行動学  
放射線動物科学

## 農学国際専修

国際動物資源科学

## 附属牧場

食生体機能モデル学  
実験資源動物科学

食の安全研究センター  
食品病原微生物



# 学部卒業後の進路

- 大学院進学（博士課程） 5~7名  
修了後は大学教員、国立研究機関・企業研究員など
- 国家公務員、地方公務員 5~7名  
国家公務員1種：畜産分野、獣医職など
- 企業（製薬・食品関連など） 4~7名
- 小動物臨床 4~6名
- 大動物臨床 2~3名
- その他（文系職、医学部学士入学） 2~3名





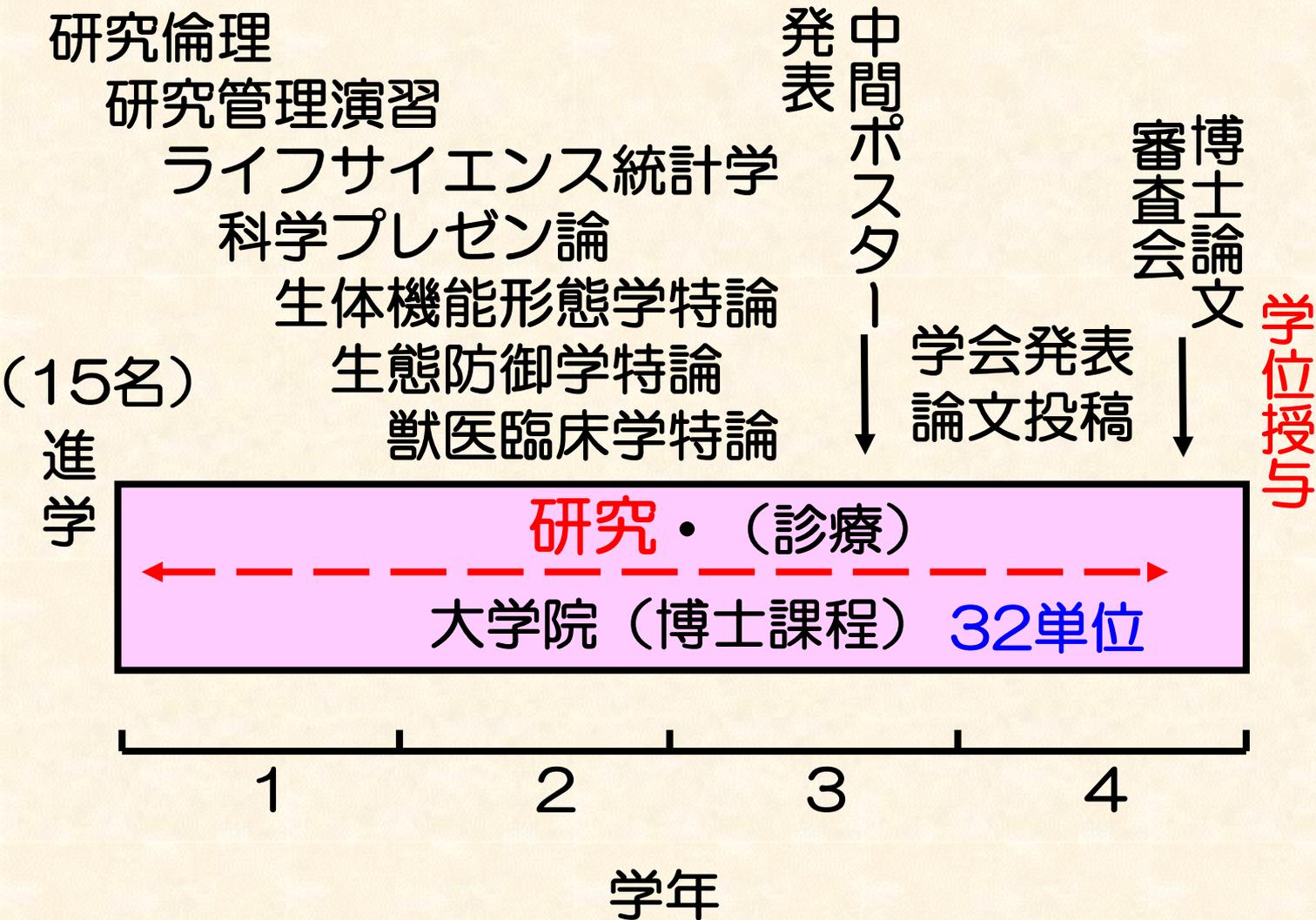
# Outline

1. 東京大学の教育システム
2. 学部教育の現状
3. **大学院教育の現状**
4. 課題と展望



# 大学院履修イメージ

(学内進学、他大学から進学、社会人、留学生)





# Outline

1. 東京大学の教育システム
2. 学部教育の現状
3. 大学院教育の現状
4. 課題と展望



# 課題

- 専門教育の開始が遅いため、時間割が極めて密。
- 専任教員で対応できない科目がある（外部講師への依存）。
- 一部の教員の講義・実習負担が高い。
- 退職教員の後任人事の長いタイムラグ。
- 教員増員の見込みがない。
- アドバンス教育の実態がわかりにくい。
- 大動物診療施設をもたない。
- 独立した動物実験教育施設をもたない。
- 共通機器が限られており、維持予算も少ない。
- 高度封じ込め感染実験室（BSL3）をもたない。
- 動物病院を含め建物・施設の老朽化が目立つ。
- 動物病院の収入が専修に還元されない。
- その他



# 展望

- 専任教員の赴任に伴う大動物臨床学カリキュラムの充実。
- 教育担当の特任教員の雇用（外部予算）。
- コア科目の中でアドバンス内容を教授。
- 附属牧場の整備（民間企業との連携）と教育利用の充実。
- 研究室や共通機器の整備や更新予算の獲得（卒業研究）。
- スキルラボやコアラボの充実。
- 外部や学内資金（概算要求）獲得の努力。
- 他大学との教育連携。
- ステークホルダーとの教育連携。
- 海外の獣医大学との教育連携（派遣と受入れ）を継続。
- 学部化への努力を継続。
- インターンシップへの積極的参加。
- その他

